

腫瘍

Tumor

ユニット責任者：臨床腫瘍学 教授 中 島 貴 子

ブロック名	期間	ブロック責任者	
第1ブロック	腫瘍	10月9日 ～ 10月12日	津田 享志

1. ユニット概要・学習内容

がんを含む悪性腫瘍の生物学から診断、治療まで、各臓器・領域に共通する腫瘍学を総合的に学ぶ。全身療法としての薬物療法、放射線治療、外科的治療、支持療法、緩和医療の基本的な概念に加え、インフォームドコンセントやコミュニケーションスキルなど、悪性腫瘍に対する診療に必要な基本姿勢や実践的な知識を身につける。

2. 到達目標

- 1) 悪性腫瘍の疫学、発生、予防・検診について説明できる。
- 2) 悪性腫瘍が遺伝子による病気であることを理解し、遺伝性・家族性腫瘍についても説明できる。
- 3) 悪性腫瘍に関するエビデンスを理解する上で必要な基本的な尺度、統計学を理解できる。
- 4) 悪性腫瘍の病理学的診断について説明できる。
- 5) 腫瘍ウイルスと発がん機構について説明できる。
- 6) 腫瘍免疫、悪性腫瘍に対する免疫療法について説明できる。
- 7) 悪性腫瘍に対する薬物療法の理論、種類、副作用について説明できる。
- 8) Oncologic Emergency について概説できる。
- 9) 悪性腫瘍に対する手術療法の理論、種類、合併症について説明できる
- 10) 悪性腫瘍に対する放射線療法の理論、種類、副作用について説明できる。
- 11) 悪性腫瘍に対する interventional radiology について説明できる。

3. 学習上の注意点

各臓器・領域におけるがんを含む悪性腫瘍の特性については、臓器別コースで学習するため、本ユニットでは、それらに共通した理論、知識を総合的に学習する。

授業はスライド資料をもとに進める。入門腫瘍内科学の総論を予習しておくことが望ましい。授業で重要とコメントされた部位については、各自で以下の参加書などを用いて復習すること。授業中・後には積極的な質問、討議を期待する。

4. 教科書・参考書

教科書：

『入門腫瘍内科学 改訂第2版』（篠原出版新社）

（書評）学生の教科書として用いられることを目的とした、わかりやすい基礎的な内容。

参考書：

『新臨床腫瘍学 - がん薬物療法専門医のために - 改訂第4版』（南江堂）

（書評）がん薬物療法専門医を目指す医師の学習を目的とした、基本的ではあるが、やや専門的な内容。

『Cancer Principles and Practice of Oncology』（Lippincott Williams & Wilkins）

（書評）がんの教科書として、古くから海外問わず読まれている良著。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	70 (%)	後期期末試験期間中に実施する
TBL		20 (%)	
授業態度		10 (%)	

当ユニットでは学年末再試験を実施する。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
臨床腫瘍学	教授	中島 貴子	火 以外	臨床腫瘍学 医局	tnakajima
〃	准教授	砂川 優	月 以外	〃	Y.sunakawa
〃	講師	津田 享志	木 以外	〃	tatsuda
〃	講師	小倉 孝氏	火・金以外	〃	takogura

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略